



日本ジオパーク関東地区大会（銚子大会）2015

報告書

2015年11月21日～22日（銚子市市民センター/銚子ジオパーク）



屏風ヶ浦



犬吠埼



犬岩



小畑池

日本ジオパーク関東地区大会（銚子大会）2015 実行委員会

大会概要

■名称	日本ジオパーク関東地区大会(銚子大会)2015
■会期	2015年11月21日(土)～22日(日)
■主催	日本ジオパーク関東地区大会(銚子大会)2015 実行委員会
■共催	銚子市、銚子市教育委員会
■後援	特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク、千葉科学大学、一般社団法人 銚子市観光協会、銚子商工会議所
■事務局	日本ジオパーク関東地区大会(銚子大会)2015 実行委員会事務局 (銚子市教育部生涯学習スポーツ課ジオパーク推進室内) 〒288-0031 千葉県銚子市前宿町 1046 銚子市青少年文化会館内 電話:0479-24-8911/FAX:0479-21-6622 email: choshigeopark@city.choshi.lg.jp
■メイン会場	21日:銚子市市民センター(千葉県銚子市小畑新町 7756) 22日:銚子ジオパーク
■参加者数	約 600 名



大会スケジュール

21日 大会スケジュール

13:00-13:20 開会式 **会場** 銚子市民センターホール

13:20-14:15 基調講演 **会場** 銚子市民センターホール

講師:篠原 靖 氏 (跡見学園女子大学准教授、内閣府地域活性化伝道師)

14:30-15:30 バーチャルジオツアー(第2部) **会場** 銚子市民センターホール

15:45-17:50 分科会 A～C

分科会 A(観光) **会場** 銚子市民センターホール

分科会 B(教育) **会場** 銚子市民センター会議室1, 2

分科会 C(関東地区ジオストーリー) **会場** 銚子市民センター調理室

18:00-18:20 分科会のまとめ **会場** 銚子市民センターホール

19:00-21:00 交流会 **会場** 犬吠埼ホテル

—プレ企画—

10:30-12:30 バーチャルジオツアー(第1部) **会場** 銚子市民センターホール

12:45-13:00 ゆるキャラ大集合! **会場** 銚子市民センターホール

—その他—

10:00-16:00 物販 **会場** 銚子市民センター東側駐車場

10:30-17:15 ブース展示 **会場** 銚子市民センター ホワイエ2、会議室3、会議室4、音楽広場

22日 ジオツアー

Aコース 銚子半島の古代の歴史と下総台地の自然をさぐるツアー

Bコース 銚子半島の海岸で自然と水産業を楽しむツアー

Cコース お手軽簡単! 銚子でめぐる日本列島形成の足跡ツアー

Dコース 銚電とレンタサイクルで周る銚子半島ツアー

Eコース 伊能忠敬とめぐる銚子ジオパークツアー —忠敬は全国のジオパークを歩いています—

ゆるキャラ大集合！

○ジオっちょによる銚子ジオパークのPR

銚子ジオパークのPR大使のジオっちょです！ジオっちょは、銚子の魅力をみんなに一生懸命PRするために日夜努力しています。ジオっちょはこの体に海の波しぶき、白亜の犬吠埼灯台、そして国の名称及び天然記念物へ指定される屏風ヶ浦の地層など、銚子の魅力をたくさん表現しています。ジオっちょは、体いっぱい銚子ジオパークを応援して発信していきます！

○ちょーぴーによる銚子市のPR

ちょーぴーは銚子の特産品であるキャベツの妖精です。頭には犬吠埼灯台も載せています。しっぽは菜の花でできています。ちょーぴーは銚子のPRをがんばってきたおかげで、この夏銚子の公認キャラクターになることができました！これからも引き続き、銚子のPRをがんばっていきますので、よろしくお願いします。

○ねぎ坊による下仁田ジオパークのPR

みなさん、こんにちは！今日はこんにゃくと下仁田ネギが特産の、群馬県下仁田町からやってまいりました、ねぎ坊です！本日は関東地区大会銚子大会開催、おめでとうございます。ねぎ坊はこんなにゆるいキャラクターで、赤いマフラーをしています。下仁田ネギもちょうどおいしい時期になっていまして、明日下仁田町ではネギまつりが開催されます。みなさんもぜひ下仁田ネギを食べてみてください。どうぞよろしくお願いします。

開会式

○主催者挨拶

坂本 尚史(日本ジオパーク関東地区大会(銚子大会)2015 大会実行委員会 委員長)

本日はご多用の中、多くの皆様、ジオパーク関係者の方々に銚子ジオパークにお集まりいただき誠にありがとうございます。関東大会も今回で3回目ですが、本日は関東地区のジオパーク正会員に加えて、準会員の皆様にもお出でいただき、関東ブロックのつながりを強める良い機会になると考えます。またジオパークも近々ユネスコの正式プログラムとなる予定であり、ジオパーク活動も今後世界的なものに高まっていくものと思われます。今大会のテーマは「ジオパークで身近な人とつながり世界を広げよう」で、この2日間の大会において各地域のジオパークの持つ共通の課題、問題点の解決に向けてそれぞれの意見交換をするとともに、ネットワークを通じてその連携を強化して交流を深めていくことを期待しています。また、銚子ジオパークは来年度、再審査を迎えますが、本日の大会を含めてご参加の各ジオパークの方々からいろいろなお意見、ご助言をいただけたらと思っています。なお、このたび銚子ジオパークのジオサイトのひとつであります屏風ヶ浦が、国の名勝、天然記念物になることが決まっており、その背景としては、このジオパークの活動が市民にも認められ、多くの方々の協力を得ていることも大きな手助けになっているものと考えます。これから2日間、ぜひお楽しみいただければと思っています。

越川 信一(銚子ジオパーク推進協議会 会長)

ようこそ関東各地から銚子へおいでくださいました。ぜひジオのまち銚子を堪能していただきたいと思います。ジオガイドの方によれば、銚子のジオパークの特徴は平らなところであるということです。確かに、一番高い場所である愛宕山が73.6mしかなく、各地のジオパークに比べると本当に平らだなと思われまう。銚子の気候も大変平坦で、夏涼しく、冬暖かい気候です。人間も平坦でなだらかな人間が多いです。さきほどのお話にもありましたように、ユネスコの総会で世界ジオパークの活動がユネスコの正式なプログラムに承認され、そして昨日の文化審議会の答申で、銚子の屏風ヶ浦が国の名勝、天然記念物に指定されることが確定したという2つのうれしい出来事がありました。屏風ヶ浦は銚子を代表するジオサイトであり、10kmの崖が続いていますが、近年は消波ブロックによって浸食が止まったため、草が生え、本来の屏風ヶ浦の姿が失われて地層や地肌が見えなくなってしまうという危惧もあります。また耳が立った犬のような形の犬岩も、浸食によって耳が取れてしまうのではという心配もあります。ジオサイトは、あるがままが基本、現状を変更しないというのが基本ですが、一方で観光資源として手を加えて保全、保護をする必要があるというご意見もあります。銚子の屏風ヶ浦、犬岩などをひとつの課題として、ぜひジオサイトの保存、保護の在り方についてもご議論いただければと思います。関東地区大会の成功を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

石毛 之行(千葉県議会 議員)

本日は日本ジオパーク関東地区大会をここ銚子で開催していただき、ありがとうございます。また、他県から多くの方がこの遠い銚子へきていただいたことにより、銚子ジオパークもさらに充実し、来年の再登録へ向けての大きな力になってくれるものと信じております。さきほど、ジオつちよ、ちょーぴーがおりましたが、ちょーぴーのキャベツも、頭の上の灯台もジオのおかげであります。千葉県議会でも、超党派でジオパーク推進議員連盟を結成しており、銚子ジオパークの充実、新たに登録めざす地区への支援をするために、勉強会や視察などを行っています。しかし、我々議員もそうですが、行政自体もジオパークに対する認識がまだまだ不足しておりますが、みなさまのお力で、活動の糧にしていきたいと考えています。今の時点におきましては、観光という面で駐車場の整備や案内板の設置、トイレの整備等やらせ

ていただいておりますが、もっとジオパークとして全国に発信するよう、関東地区のみなさんで協力しつつ、問題点をお互いに補てんしあいながら推進していただきたいと思います。このたび盛大に大会を開催していただきました、坂本実行委員長をはじめ、越川銚子市長そして各地の皆様方に心から御礼を申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

信田 光保(千葉県議会 議員)

日本ジオパーク関東大会がここ銚子で開催されますこと、心からお喜びを申し上げますとともに、ここに携わった関係各位の皆様方に心から敬意と感謝申し上げます。今日は、関東各地域から銚子にお越しいただいております。ホトギス銚子は国のとつぱずれという言葉があります。ここ銚子の地はとつぱずれではありませんが、多くの資源、産業があります。銚子ジオパークは日本ジオパークに認定されてから3年を経過しましたが、銚子の歴史や文化や特徴というものを改めて再発見していただいたのがまさに銚子ジオパークではないかと思います。各地域では、認定され、また認定に向けた準備をしている団体のみなさんがいると聞いております。銚子ジオパークは3年経過していますが、すばらしいのは、市民のみなさん一人ひとりがボランティアでおもてなしの心をもって各自ジオの活動に取り組んでいる、これに尽きるのではないかと思います。この関東地区大会を通じて、さらにジオを盛り上げていこう、そんな大会でもあるのではないかと思います。今日明日2日間の大会ですが、実り多き大会となり、銚子にとっては来年いよいよ再認定の時期を迎えるわけであります。国の名勝もほぼ認定ということですので、さらに銚子の発展はもちろん、関東全体でこのジオを盛り上げていくきっかけになればありがたいと思っております。この大会にあたりました関係各位の皆様方に心から御礼を申し上げまして、挨拶にかえさせていただきます。本日はおめでとうございます。

○来賓紹介

石上允康氏(銚子市議会 議長)

赤木靖春氏(千葉科学大学 学長)

宮内 智 氏(銚子商工会議所 会頭)

吉原正巳氏(銚子市観光協会 会長)

○ジオアート贈呈式

北海道地図株式会社専務取締役 小林毅一様より銚子ジオパーク推進協議会 越川会長へジオアート(空から地上を見下ろしたように描いた鳥瞰図で、地形を立体的に捉えた地図)の贈呈



銚子ジオパーク推進協議会会長挨拶



ジオアート贈呈式

基調講演

講演者：篠原 靖氏（跡見学園女子大学准教授、内閣府地域活性化伝道師）

テーマ：ジオパーク資源を活用した総合観光戦略について

講演の流れ

1. 我が国の観光の最新動向
2. 時代の変化と旅行マーケットの変化
3. ジオパーク資源と既存の観光資源の融合
4. 先進事例のご紹介（長崎さるくから学ぶもの）
5. まとめ



1. 我が国の観光の最新動向

2014年の訪日外国人旅行者の旅行消費額は2兆278億円で、1年間で、2013年と比較して、43.1%も増加した。このように観光マーケットが大きく変わってきているので、政府も各自治体の方々も、こうした方々を地域にどうやって呼ぼうか必死になっている。

日本は少子高齢化が進み、公共事業費も減少している。各市町村も定住人口の保持ということでがんばっていたが、交流人口をもって地域を発展させようとしている。観光でお金を落としてもらおうということで改めて動き出している。

日本人1人当たりの年間消費額は、124万円である。一方、外国人旅行者平均で、13万7千円である。そこで、人口減少分を旅行者の数に置き換えてみると、外国人旅行者では10人分、日本人宿泊旅行者で26人、日本人日帰りでは83人になる。

2. 時代の変化と旅行マーケットの変化

従来型の観光は、「団体」、「宴会」、「通過」だった。しかし、最近では地域性、地域の魅力、体験、参加、交流、ふれあいが求められている。キーワードは、「生活文化観光」である。

地域観光のコンセプトづくり5つのポイント

- (1) 資源発掘の視点
- (2) 顧客価値の視点（お客様にとって、見たり体験したりすることにどんな価値があるのか）
- (3) 資源の編集の視点（お客様の価値を創造するために、どのように資源を編集加工するのか）
- (4) 事業モデル化の視点（継続的なビジネスモデルとして、どのような工夫をするのか）
- (5) 人材育成の視点（必要となる人材とその育成について、どのような工夫が考えられるのか）

大型観光地でも、農業、漁業、歴史・文化の再編集をしている。これまで観光とは関係なかった人たちまで、関わって着地型商品を開発している。着地型によって、体験、滞在、交流というストーリーを描き、地域の組織をうまく活用して、消費者あるいは旅行会社に発信している。

3. ジオパーク資源と既存の観光資源との融合

今までの観光は、コンビニ型の観光（いつでも、どこでも、どなたでも）だった。一方、消費者は本物を求めている。こ

れから寿司屋のカウンター型(いまだけ、ここだけ、あなただけ)という、あなただけ特別にサービスしていますというのが大事である。体験、滞在、交流を通して、そこでしか感じられない、今だけ、私だけの旅を作ることが一番大事です。

4. 先進事例のご紹介(長崎さるくから学ぶもの)

「さるく」の語源は、長崎弁で、ぶらぶら歩くという意味。

長崎市のコンセプト「まち活かし、人活かし」である。そこで、もう一度、市民に町の資源と観光の大切さを徹底させた。長崎がやったことは何かというと、お客さんと呼ぶ前に、市民を巻きこんで、長崎の町をいっしょに歩こうという企画を行った。集まった市民に対して、長崎の実情と町を知りましょう、町をもう一回見直そうと勉強し始めた。この長崎さるくが成功したのは、観光客と呼ぶ前に、市民が長崎の魅力をもう一度知ることから始まったこと、これが非常に大切である。

- ①遊さるく 特製マップを片手に自由に歩く
- ②通さるく さるくガイドの説明を聞きながら歩く
- ③学さるく 専門家による講座や体験を通して、さらに深く追求する。

5. まとめ

- ・どんなまちにしたいのか、当事者である住民が自ら考え、話し合うこと
- ・いきいきとした暮らしのあるところに観光客はひきつけられる。
- ・観光から入るまちづくりはだめ。暮らしから入るところが成功する。

事後のアンケート調査結果

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足	不参加
銚子市内	6	5	0	1	0	14
銚子市外	15	12	0	0	0	1

回答者:銚子市内27人、銚子市外28人



基調講演のようす1



基調講演のようす2

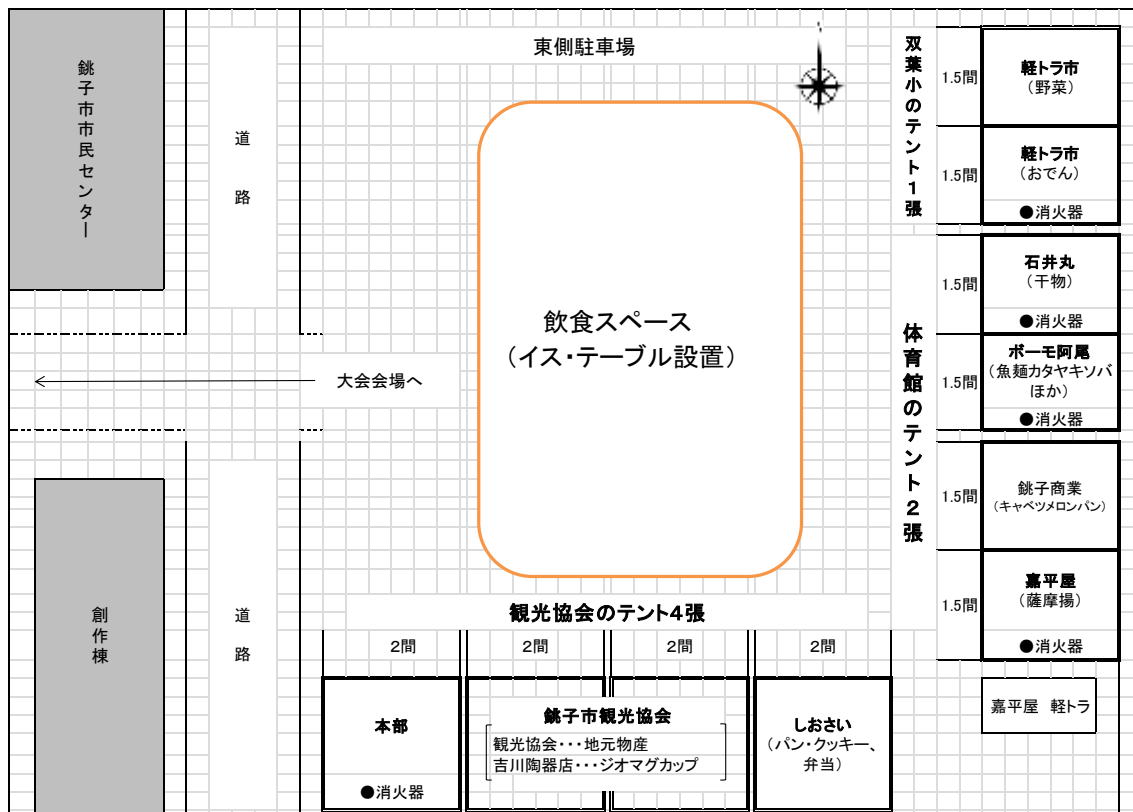
物販(物産市)

場所：東側駐車場において、地元物産の飲食と販売を実施した。

【出店者及び品目】

出店	品目
銚子市観光協会	地元物産(菓子、ぬれ煎餅、陶器、グッズ等)
嘉平屋(株)	さつま揚げ
銚子商業高等学校	キャベツメロンパン等
石井丸干物店	佃煮、干物、串焼き
(有)ポーモ阿尾	銚子カタヤキノバ、魚麺等
しおさい	パン、クッキー類、弁当
門前軽トラ市	地元野菜、おにぎり

【会場配置図】



【アンケート結果】

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足	不参加
銚子市内	2	6	5	5	3	3
銚子市外	5	7	9	0	0	6

回答者:銚子市内24人、銚子市外27人

アンケート調査結果(概要)

- ・物販の会場の場所がメイン会場から距離があり、適切ではなかった。
- ・会場内での放送等、案内がほしかった。
- ・出店数と販売物品の種類が少ない。
- ・利用客が少なかったので、もう少し案内が必要である。
- ・飲食するためのテーブルの数が少なかった。
- ・関東大会に参加した他のジオパークの物販があればよかった。
- ・付近に飲食店がなく、助かった。
- ・地元産品の買い物ができてよかった。
- ・地元産の材料を使用した料理や高校生が考案したパン等を知ることができてよかった。



物販のようす1



物販のようす2

バーチャルジオツアー

時間： 第一部 10:45～11:30

第二部 14:45～15:30(基調講演等の遅れにより、開始が 15 分遅れた)

第一部 10:45～

①銚子ジオパーク「Virtual 忠敬ジオストーリー」

■銚子ジオパーク推進市民の会

■ガイド:銚子ジオパーク推進市民の会 白土 紀子さん、宗 真理子さん、PC操作:宮内 敏さん

タイムトリップした伊能忠敬と巡ることをコンセプトにしている。忠敬のエピソードを交えながら測量の道筋をツアーすることで、銚子ジオパークの主要ジオサイトの紹介と忠敬の銚子測量への理解を同時に深めてもらおうとことを目的としている。

主な場面

- ・銚子半島をほぼ忠敬の測量の道筋に沿って案内。
- ・銚子半島を一望できる愛宕山の地球が丸く見える展望館からスタート。
- ・屏風ヶ浦:伊能忠敬銚子測量記念碑、屏風ヶ浦の地層等の案内。
- ・犬岩サイト:犬岩伝説、地層、植物など案内。台地に登り忠敬富士山の方位測量地点の案内、銚子測量の起点、銚子測量の重要性について案内。
- ・宝満:宝満の上部を覆う溶岩は 2100 万年前の溶岩であることなど。
- ・犬吠埼:中生代ジュラ紀の浅海堆積、地層の話など。
- ・とんび岩:海鹿島礫岩、チャート、榎本艦隊と伊能測量隊の意外な繋がり。
- ・夫婦ヶ鼻:1700 万年前のシルト岩の話、宝満とからめ日本海形成の話
- ・飯沼観音:銚子飯沼水準原標石、深浅高低の基準、日本初の日本水位尺
- ・ランドサット画像と伊能中図の重ね合わせをデモンストレーション。

②筑波山域ジオパーク

「大地の遺産の宝庫、筑波山」

■ガイド:NPO 法人ネイチャークラブにいはいり 黒澤 順一さん PC操作:つくば市ジオパーク推進室

③銚子ジオパーク

「銚子ジオパーク ジオツアーハイライト」 銚子ジオパーク推進市民の会 約 15 分

■ガイド:銚子ジオパーク推進市民会 江波戸正徳さん、内匠五月枝さん PC操作:小玉健次郎さん

④茨城県北ジオパーク

「ようこそ5億年の旅へ！」

■ガイド:茨城県北ジオパークインタープリター 荒川 和子さん(PC操作は本人)

第二部 14:30～15:30

⑤筑波山域ジオパーク

「大地の遺産の宝庫、筑波山」

■ガイド:NPO 法人ネイチャークラブにいはり 高田 正澄さん PC操作:つくば市ジオパーク推進室

⑥伊豆大島ジオパーク

「若くて元気な火山島～伊豆大島ジオパークへようこそ！」

■ガイド:伊豆大島ジオパーク ジオパーク専門員 臼井里佳さん(PC操作は本人)

進行について

- ・バーチャルジオツアーの午後の部の最後に「Virtual 忠敬じおすとリー」の発表を予定していたが、基調講演等が長引き、時間がなかったので中止した。
- ・質疑応答の時間を設けたが、質問がなかった。

感想等(事後アンケートより)

- ・事前資料が欲しい。
- ・タイムスケジュールが欲しい。
- ・ブース展示のコアタイムと同じ時間だったので、あまり見られなかった。
- ・時間に余裕がなく残念だった。
- ・映像(パワポ)、特に風景の場合、もう少し暗くすると鮮やかさが増す。
- ・各ジオパークの特徴を知る事ができ、良かった。
- ・作り方として、歩いているように、動画も入れて作ってみるのも面白いかなと思った。
- ・短い時間で全体を俯瞰できたような気がする。
- ・素人さがあふれるものの分かり易い様に良く工夫されていると思った。
- ・銚子ジオパークの方の演劇方式での説明が面白かった。
- ・茨城県北ジオパークの発表が印象的だった。
- ・各ジオパークの取り組みや深さ、広さに差を感じた。
- ・歴史上の人物に扮しての見どころ紹介や、ガイド役と客役でのやり取りによるツアー紹介が印象的だった。
- ・伊豆大島ジオパークは構成(歌を取り入れたこと)がおもしろく、引き込まれた。



ブース展示

趣旨：関東地区のジオパーク及び銚子ジオパーク推進協議会の加盟団体が、ジオパーク活動の紹介を通して、交流を深めていくこととする。

ブース展示の募集テーマ

1. 対象者：日本ジオパークネットワーク正会員、準会員のジオパーク推進協議会等)
 - ・各ジオパークの魅力を簡単に紹介してください。
 - ・各ジオパークの取組事例を紹介してください。
 - ・各ジオパークの課題について紹介してください。
2. 対象者：各ジオパーク推進協議会の加盟団体等
 - ・各団体のジオパークへの取組状況を簡単に紹介してください。
3. 対象者：大学、研究機関等
 - ・ジオパークを活用した調査研究を簡潔に紹介してください。
4. 対象者：団体あるいは個人等
 - ・ジオパークに関連した体験的な実験、研究あるいは実演等について紹介してください。
5. 対象者：学校教育関係等
 - ・学校教育におけるジオパークを活用した自由研究の作品、工作あるいは標本を紹介してください。

ブース展示の方法

ブース展示の掲示可能時間は、9:30～17:15で4、コアタイムを14:15～15:15とした。また、1ブースの大きさは、幅 2.4m、奥行き 1.2m、高さ 1.8m とした(高さ 1.8m×幅 1.2m のパネルを 4 枚使用した(図1参照))。なお、会場は、ホワイエ2(他のジオパーク、銚子ジオパーク推進協議会のメンバーほか)、会議室3(銚子市小中学校科学作品展ほか)、会議室4(個人の調査・研究)、音楽広場(銚子ジオパーク推進協議会のメンバーほか)を使用した。

ブース展示の要旨を発表者に提出していただき、ブース展示要旨集(A4版、両面、黒単色、24 ページ分)を作成した。

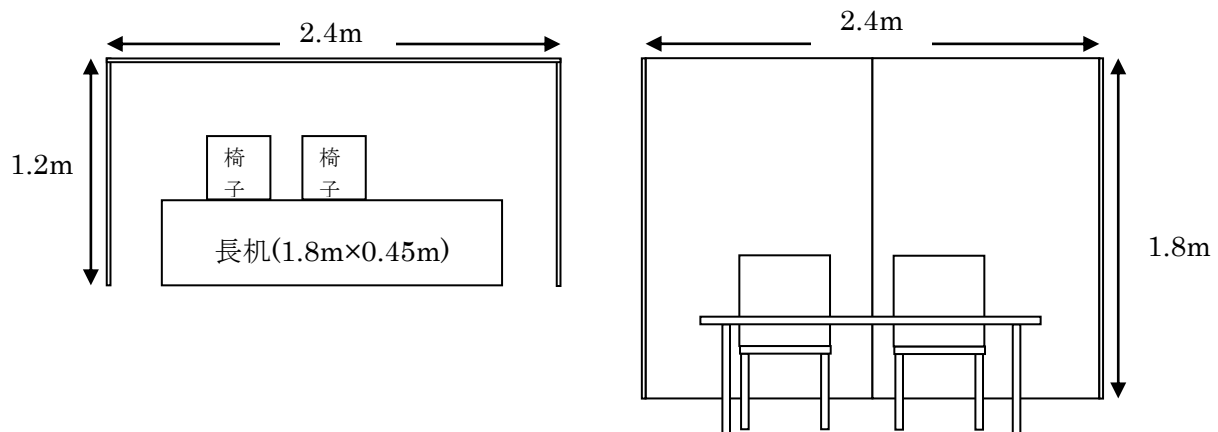


図1 ブースの立面図(左)と正面図(右)

出展作品は、合計34団体であった(表1)。

表1. 出展作品一覧表

番号	タイトル	発表者
S1	銚子市小中学校科学作品展	銚子市小中学校理科教育部会
S2	九十九里の危機	山脇学園中学校
S3	屏風ヶ浦の校外学習	銚子市立第三中学校
B1	伊豆大島ジオパーク 海から見るジオツアー	臼井里佳
B2	茨城県北ジオパークの概況について	茨城県北ジオパーク推進協議会事務局
B3	茨城県北ジオパーク～茨城大学学生プロジェクトの活動について～	今泉利架・遠藤史隆・杉野伊吹
B4	芸術とともに歩む ジオパーク秩父	吉田健一・富田貴夫
B5	ネギとコンニャク・ジオパーク	ジオパーク下仁田協議会
B5	「日本ジオパーク下仁田応援団の活動」	日本ジオパーク下仁田応援団
B6	銚子ジオパークのジオガイド養成講座について	山田雅仁・岩本直哉・若山昌弘・玉崎雄三
B7	南足柄市エリアの編入で更なる飛躍を目指す箱根ジオパーク	栢沼眞次・青山朋史・深瀬誠二
B7	箱根ジオパークにおける情報発信の取り組み紹介	山口珠美・栢沼眞次・青山朋史
B7	箱根ビジターセンターへようこそ	加藤和紀
B7	箱根火山の活動について	道家涼介
B8	世界を目指す伊豆半島ジオパークの活動	飯田雅人
B9	研究学園都市の向こう側 ～筑波山地域の大地の見どころ紹介～	柴原利継
B10	天明大噴火の影響について	宮崎貴・土屋智美
B11	めざせ一秋川流域ジオパーク	長田敏明
B12	銚子と千葉県の気象・気候と防災	銚子地方気象台
B13	銚子ジオパークでの水産工学に係る研究開発	中山哲巖
B14	東日本大震災の記憶と自助・共助による防災・減災	春山敏郎・小曾根和弘
B15	稲むらの火 防災教育プロジェクト	和泉千恵子・伊橋亜弥子
B16	銚子ジオパーク菓子のPR	高安昌弘
B17	利根川舟運と醤油産業	ヤマサ醤油・ヒゲタ醤油
B18	日本各地のジオパークにおける地図データの活用事例	杉山悠然・立崎義昭・小林毅一
B19	銚子ジオパークの教育利用	安藤生大
B20	銚子の水の災害と恩恵を学習・体験する「防災ブルーツーリズム」の提案	藤本一雄
B21	千葉県銚子市の大型菌類相－2013 年～2015 年調査結果より－	糟谷大河・小林一樹・塙祥太
B22	風と波の造形	伊藤修二
B23	伊能忠敬と銚子測量	宮内敏
B24	銚子の化石	山田勝彦
B25	銚子市旅館組合の取り組み紹介とジオ紙芝居	梅津佳弘

B26	銚子ジオパーク推進市民の会の生い立ちと活動	工藤忠男
B27	銚子市郷土史談会のジオパークへの取組状況の紹介～銚子洛中歴史(近世)ジオガイド図屏風～	大崎豊
B28	共に支え合う地域社会をめざして	小澤利政
B29-31	観光写真コンテスト入選作品 ジオサイト作品	銚子市観光協会
B32	「地質標本館 2015 夏の特別展 ジオパークで見る日本の地質」より-	銚子ジオパーク推進協議会
B33	銚子市を襲った巨大津波の謎ー古文書、津波堆積物、数値シミュレーションからの推定ー	柳澤英明

事後のアンケート調査結果

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足	不参加
銚子市内	4	15	4	1	1	1
銚子市外	6	15	4	2	0	0

回答者:銚子市内27人、銚子市外28人

アンケート調査結果より

- ・地元の学校が研究や展示に、力を入れているのに感動した。
- ・様々な活動主体が参加する場となっているのは良かった。
- ・内容豊富で良かったと思います。それぞれ工夫がみられた。
- ・展示場所(全体スペース・通路)が狭かった。導線があまり良くなかった。
- ・訪れる方が少なかった。
- ・見る時間が余り取れなかった。



ブース展示のようす1



ブース展示のようす2

分科会(観光)

○コーディネーター(篠原靖氏)／コメンテーター(目代邦康氏)

○趣旨

この分科会では、各地域で抱えているジオパークを活用した観光戦略の問題点を浮き彫りにし、理解を深め、その課題解決方法を考えていくことを目的とする。

○各ジオパークの事例報告(口頭発表)

◆下仁田ジオパーク(鈴木英男氏)

下仁田ネギとこんにゃくが有名な町のジオパーク。世界遺産である荒船風穴を有している。今年度から観光係とジオ係が一緒になり、各イベントでPRしている。荒船風穴について、保全は文化財、活用は観光・ジオの係でやっている。

◆秩父ジオパーク(富田貴夫氏)

秩父ジオパークは1市4町で構成され、面積の大部分が森林で四季折々の美しい光景を見ることができる。推進協議会の事務局は観光課で、協議会の中には観光協議会や1市4町の担当や商工会、鉄道会社など。外部団体のおもてなし観光公社を立ち上げ、1市4町が一緒に活動を実施。ジオも絡んで様々な事業を展開している。

◆鉾子ジオパーク(佐野明子氏、渡辺博季氏)

鉾子ジオパークの良いところはジオガイド。ガイド数も年々増加し、お客様の興味も増えつつある。市内の観光施設等が積極的にジオを推進してくれているが、観光客の急激な増加に直結していない。PR不足が要因の一つであると考えられ、連携したPR、市民への周知、行政内での連携、ジオの見せ方など今後検討が必要。

◆箱根ジオパーク(片野忍氏、中矢慎一氏)

箱根ジオパークは、1市3町で構成されている。代表的な事例として、箱根火山を学ぶジオツアー、箱根ジオパーク認定特産品、帝京大学の学生企画ジオツアー「芸妓と歩く」箱根歴史旅などがある。今後はジオを活かした深みと奥行きのある観光地を目指して、観光客の周遊、滞在時間の延長に結びつけていきたい。

◆伊豆半島ジオパーク(飯田雅人氏)

伊豆半島ジオパークは15市町で構成され、総人口は69万人。すでに観光地として整備が行き届いている。生態系がそのまま観光と直結しているが、観光客が生態系を崩してしまう懸念がある。ジオでは非常に重要な場所であることを認識してもらうために、出版物やパンフレットなどを活用。解説看板も100基ほど設置。ジオツアーの実施や企業との連携による関連商品開発などの活動を展開している。

○パネルディスカッション

◆篠原:観光とジオをつなげ、集客のしくみづくりが大切。ジオは、自然保護をベースに進んでいるイメージ。ジオが一般旅行者に理解されづらい現実がある。既存の観光とジオをどう融合させるか。ジオの活用について議論したい。

まず「既存の観光とジオパークの融合について、各地区の現状と分析」について各ジオパークから発表をお願いしたい。

◆下仁田:今までジオ推進室と観光係で別にPRを行ってきたが、今年からは一緒になりPRしている。カプトムシの引換券配布などしているが、あまり手ごたえはない。PRに際しての科学的裏付けについても、今後取り組みたい。

◆秩父:まちなかを案内する中でのジオの説明が難しかった。昔から秩父は観光地で様々なガイドがいる。各分野での課題をだしながら、養成講座をしている。最初から行政と一般市民が一緒になってやっている。

◆鉾子:鉾子では宿泊施設で積極的にジオを取り入れているが、観光事業者の中にはジオに積極的ではない方もいるようだ。行政内でも観光部署とジオの部署での連携不足を感じる。共通部分はたくさんあるので、協力しあってほしい。

◆箱根:箱根のネームバリューにジオが負けてしまうのではと感じる。ジオを根付かせるためには、まず地元の方に浸透させることが重要。地域で協力して、ジオで遊びを取り入れたイベントを行い、面白いジオパークを目指したい。

◆伊豆半島:既に観光地として成立しているので、まずはジオについてメリットを感じてもらうことが重要。既存の観光資源にジオが付加価値をもたせていること、そしてジオを有効活用し、地元の方からそれを発信してもらうことが大切。

◆目代:それぞれがいろいろな問題を抱えている。問題点をつきつめて考え、ジオをどう使うとうまくいくか考えるべき。インバウンドとして外国人に十分通用するので、そこをつきつめてもよい。自分たちで深く掘り下げていくべき。

◆篠原:(伊豆半島へ)さきほど言われていた、ジオの付加価値とはどういったものか?

◆伊豆半島:お客様は観光地ということで来ているが、その背景までは知らない。なんでこういう風景、地形ができたのか。裏側まで知ることが付加価値になる。

◆篠原:地域の個性をどう消費者につなげるか。これが体験、滞在、交流のベースになる。地域の成り立ちや文化の裏側を見ていただくことで、従来のガイドよりも一つ深く入っていける。地元の方に参加していただくのがいい。

◆篠原:(鉾子へ)観光施設からは、ジオではなかなか集客できないと思われているのか?

◆鉾子:実際恩恵を感じていない方はいるが、そこに入り込もうとしていないのではないのか。数字につながっていないという部分でそう思われるのでは。

◆篠原:(鉾子へ)ジオ推進室と観光課における協力関係はどうか?

◆鉾子:観光課では、既存の観光事務が忙しく、鉾子の観光のあり方について議論はされていないのでは。ジオの活用方法もあまり考えていないのではないのか。

◆篠原:地域の力を、観光につなげてないとすれば、もったいない。鉾子は歴史も文化も独特で、これを伝えることによってリピーターも増えていく。次に、「地域及び行政とジオパークの連携についての課題と秘訣」について、それぞれお話しいただきたい。

◆下仁田:今年から観光とジオが一緒になり連携はとれているが、他の部署はまだ弱い。応援団には他部署の人が入っている。役場の職員でも温度差がある。

◆秩父:秩父はうまくいっている。住民が行政に対して要望もしている。ジオばた会議をやっていて、みんなジオに興味をもってきている。

◆鉾子:推進市民の会の方と観光行政の結びつきが弱い。推進室がコンテンツ作成、観光が営業というような連携ができていない。関係者で懇親会でもやるべき。

◆箱根:行政依存の状態を払拭したいが、難しい。普通のPRでよいのかと感じる。楽しい企画を提案していきたい。行政に頼らず、アイデアを出していきたい。

◆伊豆半島:各行政の温度差が大きい。地域の方にジオを理解し、地域の方がジオの話をするというのが重要では。

行政内の他部署の関係で言えば、例えば建築課がジオを理解し、開発行為等の規制をするというような連携もある。

◆目代:伊豆半島の建築課の話は確かにそのとおり。ジオは一生懸命に保全をやっていない。ジオ関係者は、会社で言えば製造、営業そして人事管理までやっていて、なかなか回せない。任せられるところは任せて全体のチューニングをすれば限られたリソースの中で回せる。

◆篠原:銚子は市民から声があがり、箱根は逆に行政主導ということで対照的だが、伊豆半島の言うように地域の方が関わり、地域が回っていくことが大事。

◆目代:既存の市町はそれなりにシステムチックだが、それで出来ないことをやるのがジオ。地域の思いをダイレクトに吸い上げるのがジオのしくみ。

◆秩父:ジオはどちらが主導権を握るという話ではなく、みんなで話合って進めていくべきものと思う。失敗を恐れずどんどんやればいいと思う。

◆伊豆半島:地域の担い手に動いてもらうには、各区長が動くべきだが、方法がわからない。やりたい気持ちはあるはずなので、その後押しをしてあげればいい。

◆篠原:市民や一般消費者はジオが難しいものだと思っている。そうではないという理解があればもっと違うPRができると思うが、それぞれの思いは？

◆下仁田:下仁田は構成する団体の多くが自由に考えて自主的に活動しているが、これからは事務局として方向性を定め、住民の思いをくんでやっていきたい。

◆秩父:秩父は日本の地質学発祥の地であり、やらねばならないという志はある。協議会団体みんなの特徴を活かしてコラボしていければよい。

◆篠原:市民活動を見るとみなさん頑張っている。それが地域の方に共有できれば、新たなつながりができる。行政の壁、縦割りも含めてチェックするべき。

◆銚子:銚子の空間、自然、人がまさにジオそのもの。銚子の魅力は表面的なものではない。銚子の観光のあり方について、関係者が集まって議論するべき。

◆箱根:いろいろな素晴らしいジオパークがあると感じた。多くのジオパークが協力して多くのお客様を呼び込めるような大きなイベントなどでできればいい。

◆伊豆半島:ジオとは何かを地域の人たちに説明する必要はない。なぜなら普段の活動そのものがジオである。ほとんどの地域にはお祭りがあり、それには信仰や豊作祈願などの背景がある。それが土地の特徴的な活動であり、それがジオと言える。そのような背景を掘り下げることでジオとは何かが伝わる。

◆篠原:地学という学術的イメージではなく、どこの地域でもあるような話をわかりやすく伝えていくこと。そういうお祭りの背景なども伝えきれないとさびれてしまう。ジオの活動からそういう背景を理解してもらえれば素晴らしい。

◆目代:最初に考えた人たちによれば、ジオ活動の配分は保全が6割、教育が3割、地域振興が1割。地形、地質遺産、地域伝統の文化は、日々の変化では見えなくても長い年月で変わる。積極的に残さないと残らない。残すべきものの背景が私たちの生活に密接なものであるという思いを持てないと守れない。それには保全の活動が必要。地域にとって大事なものはきちんと調べて守っていけば、観光面で急激に人が伸びずとも、質の高いものにできる。

◆篠原:(総括)先人が守ってきた地域が疲弊し人口が減っている中で、100年先の子孫に地域の魅力や誇りを伝えたい。お客様は生き生きと頑張る町に魅力を感じる。それにはジオの活動が大きな希望になる。旅と味覚はセットで、ジオとして地質・土壌と関連付けて美味しい食材や水ができるというストーリーがあればもっと広がる。地域が連携し、集客のために力を一つしてほしい。

分科会(教育)

趣旨:各地域で抱えているジオパークを活用した学校教育の課題・問題点を浮き彫りにし、理解を深め、その課題解決方法を考えていくことを目的とする。

テーマ1:実施体制について

テーマ2:取り上げるべき内容、学習支援について

テーマ3:教育課程への位置づけ

前半は、5つのジオパークから、上記テーマについての事例発表を行った。後半は、ワークショップを行い、1つのテーマ当たり2班で、合わせて6つの班に分かれて、各班で約30分間議論した。その後、各班から代表者が発表した。

事例発表

1. 銚子ジオパーク(山田雅仁氏、佐野久子氏)

銚子市教育委員会では、学校教育指導の指針に「ふるさと銚子を知り、郷土に誇りを持って成長できる教育の実践」を基本的な理念とした。様々な教育活動の中で、「これも、ジオパークにつながっているね」と指導者が言えることがジオパーク学習のスタートである。そのために、まず教員がジオパークについて知ることが重要である。銚子の教員なら、ジオパークについて指導ができることを目指している。

2. 伊豆大島ジオパーク(山田三正氏)

伊豆大島でもジオに関しては、地域のもの+防災をコンセプトとして進めている。小学校の実践では、「夏休みの火山博物館宿題」、「火山博物館実習」、「総合的な学習の時間」、「私たちの郷土」、「防災教育」をやっている。先生方は忙しいので、教材を揃えるというのも重要である。教員に、地域のジオと出あわせることが重要である。先生方は島外から来るので、価値や学び方をいっしょに勉強する。学校へのアプローチとしては、教員にやる気があっても、異動したら、やらなくなってしまう。教育課程に入れれば、教員はやることになる。一番いいのは、町の教育方針に入れることである。また、ジオパークと学校をつなぐ、精通したコーディネーターが必要である。

3. 茨城県北ジオパーク(萩谷博美氏)

地域の学習ということで、社会科や総合的な学習の時間に行っている。常陸太田全体で夢を育む「夢育」を行っている。子供たちは地域の宝なので、自分の地域を愛し、自慢できる子どもたちに育てたい。龍神峡の上空からの写真を見せると、子どもたちは驚く。

学校の畑で、「ひたちあきそば」を育て、収穫後、子供達と挽いたそばを打って食べた。大地の恵みでそばが食べられることも話している。昔からの営みがあって、すごいところなのだと教えることが第一歩ではないかと思う。

4. 箱根ジオパーク(山口珠美氏、深瀬誠二氏)

神奈川県立生命の星・地球博物館は、2012年に日本ジオパークに認定される前から地学教育を行っていた。ジオガイドは、もともとあったガイド団体を対象に5回以上受講したらガイドになれる。南足柄市には、市内に6つの小学校があり、試験的に始めて、地球博物館の学芸員に出前授業に来ていただいている。ジオパーク自体の知名度は、まだ低

いが、生徒たちの関心は高かった。公開授業を使ったため、保護者に対する普及・啓発活動にもなった。世界に誇れる地質資源があるということを理解することにより、郷土愛の醸成に繋がるだろう。

5. 伊豆半島ジオパーク(富川友秀氏)

静岡県立松崎高校は西伊豆町に位置し、生徒数 300 人の中高一貫校である。地域とのつながりが深い。学校でのジオパーク活動の課題としては、指導要領に記載されていないので扱うのが難しい。また、ジオパークについて知っている教員が少ない。さらに、フィールドに出る予算や時間がない。一方、総合的な学習の時間では、内容が年間計画で決まっているので、入り込む余地がない。しかし、部活動では、自由にジオパーク活動ができる。9 月の APGN シンポジウムで、ポスター発表をするために英語の練習を始めたときから、英語の先生が協力してくれるようになった。

ワークショップ

(テーマ 1: 実施体制について)

組織: 複数の自治体に関わっている場合、自治体間の繋がりが弱い。

教員研修: 先生が学ぶシステムを作る必要がある。

教材: ジオパーク学習の副読本の作成。

理解・認知: 教員がジオのことをよく知らない、ジオパークが認知されていない。ジオパークに対する理解度は、先生の考え方で左右される。

(テーマ 2: 取り上げるべき内容、学習支援について)

ジオパークとは、地質とか地形と認識している人が多かった。扱う内容については、地域の成り立ちや自然環境、地域の特徴、地形の特徴、地形を活かした特産品、また、当たり前のことがすごいこと、自然との関わり、産業との関わり、自然災害が挙げられた。継続させていくには、推進協議会の運営が重要である。

(テーマ 3: 教育課程への位置づけ)

「自分の故郷を知ることがジオパークの手法だ」が位置づけになって、方法としては、行政の指導指針が重要であるとともに、校長会、教育委員会、教員に働きかけることが重要もある。

どこで教える: 社会科、理科、総合学習だけでなく、学校の先生たちが、ジオパークを意識しながら教える。

指導者: 学校の先生、専門家、学芸員、研究者、ジオガイド、観光ガイド



分科会(教育)のようす1



分科会(教育)のようす2

分科会 C(関東地区のジオストーリー)

【開催趣旨】

この分科会の目的は、ジオパークを語るうえで元となるジオストーリーを関東地区に拡大して作成できないかみんなで考えることです。今後、関東地区でまとまった集客戦略も必要になるでしょう。その場合(その時以外でも)他地域と関連させた話の展開が不可欠になるはず。また、関東地区で自分のジオパークどのような位置づけであるか認識することも大切。今回は最初の試みとして、関東地区のジオパークでお互いの理解を深めるワークショップを企画しました。今回の分科会をきっかけに、関東地域の一員であることを日ごろからかんがえてみてください

15 : 45-16 : 45 第一部 自分のジオパークの事を関東のみんなに知ってもらおう

自分のジオパークの事は良く勉強して知っているけど、他のジオパークの事はあまり…。もしかしたら、自分の住んでいる地域と大いに関係しているかも。ここでは、お互いのジオパークの事を紹介しあい、関東地区ジオパークの理解をみんなで深めていきます。

■銚子ジオパーク

- ・銚子の名前の由来:利根川河口は口が狭く中が広い酒器「銚子」に地形がにている→「銚子口」
- ・「農業」・「漁業」・「江戸時代の発展」・「醤油醸造産業」などが栄えたのは半島地形と利根川、黒潮のおかげ
- ・この地形を作り出した大地の歴史の紹介

■箱根ジオパーク

- ・火山の特性をいかしたジオパーク
- ・テーマ「北と南をつなぐ自然の道 東と西をつなぐ歴史の道」
- ・北は丹沢・足柄山地、南は伊豆半島。南北高い山が繋がっている。自然の障壁になっている。この地域独特の自然が形成。
- ・足柄古道、江戸時代の街道、西、東の日本を結んでいた場所でもある。
- ・来年度南足柄市も箱根ジオパークへ入ることを目指している。

■下仁田ジオパーク

- ・ジオアートムービーでの紹介
- ・利根川の最上流部、鎭川。信州の山々が見える位置。
- ・山頂の平らな山「荒船山」。周りの山ギザギザなので荒波に浮かぶ船のように見えるのでこの名がついた。800 万年前の溶岩台地。この辺りが直径 10kmのカルデラ火山。
- ・荒船風穴。岩の隙間から冷たい風。ここにカイコの卵を保管。
- ・地すべり地形を利用した牧場もある。
- ・北西、妙義山、もみじが綺麗。
- ・街中の青岩公園からは「クリッペ」が見える。根なし山、上と下の地層が違う。周辺では地殻変動の痕跡を見ることができる。
- ・河岸段丘。段丘の平らな面を利用して下仁田ネギを生産。

■茨城県北ジオパーク

- ・日立市には5億年前の地層。日本列島の形成から現在に至るまでの歴史を体験できる。
- ・日立ジオサイト: 鉾山
- ・五浦海岸ジオサイト 六角堂、芸術と風景(地質)が融合した建造物。
- ・袋田の滝ジオサイト 大昔の海底火山が隆起して断面が滝になった。

■伊豆半島ジオパーク

- ・テーマ「南から来た火山の贈り物」
- ・7市8町、面積1585平方キロメートル、人口約69万人
- ・4000万人観光客。
- ・フィリピン海プレートの最北端。
- ・本州に衝突中の火山島。
- ・火山活動や地殻変動が継続中。
- ・日本で一番目と二番目に深い海溝が沖にある。半島の両側に深い相模湾と駿河湾。
- ・成り立ち、本州に衝突した「伊豆」。2000万年まえからの歴史がある。日本では新しい地層。
- ・成り立ちに沿った、5つのサブテーマ
 - ①本州に衝突した南洋の火山島
 - ②海底火山群としてのルーツ
 - ③陸化後に並び立つ大型火山群
 - ④生きている伊豆の大地 伊豆東部火山群・活断層
 - ⑤変動する大地と共に生きてきた人々の知恵と文化 地形・噴出物・鉱床・地熱・水の利用と活用 防災・減災への取り組み

■伊豆大島ジオパーク

- ・3つの火山 → 侵食で小さく → 数万年前、真ん中で大きな噴火 → 3つの火山を埋めて大きな伊豆大島の誕生。
- ・1700年前と1500年前ともう一回、中央で大きな噴火。カルデラの形成。
- ・1777の大噴火(最新の大噴火)カルデラの中に三原山。
- ・40年周期で中規模の噴火。
- ・有名な地層断面は2万年間の地層、数えると150年から200年に一回大規模噴火が起きていることが判明。
- ・北西ー南東に火山の火口 → プレートの移動と同じ方向。
- ・火山列島は仲間、大島はいずれ箱根にぶつかる。

■秋川流域ジオパーク構想

- ・東京の西の端。関東構造盆地の西の端、銚子は東の端。
- ・駅から歩いていけるジオサイト。
- ・石炭紀から第四紀まで地層がある。これが東京都で見ることができる。

- ・付加体は何ユニットも見られる(各時代の付加体)。境界は断層、有名な仏像構造線もある。
- ・伊豆弧衝突の影響。回転したところ→地層が直立。
- ・小さなエリアに様々な地質。箱庭的なジオパーク。
- ・滝がたくさん、付加体のチャートと関係。石灰岩地帯に鍾乳洞。地形と地質の関係。
- ・日本縦断の大断層・仏像構造線の始発駅といえる。

■浅間山ジオパーク構想

- ・「浅間山」群馬県と長野県にまたがる火山。
- ・天明三年の大噴火で火砕流。「観音堂」など火山災害の歴史を伝承している。
- ・「嬬恋村」夏のキャベツ←地すべりの跡の平な土地にキャベツ畑。「長野原町」牧場←浅間山の噴出物が谷を埋めた広大な平らな土地。浅間山火山と噴火でできた地形が今の産業につながっている。
- ・温泉、別荘、リゾート、教育合宿など火山の恵み。
- ・悲惨な火山災害と現在は火山の痕跡を土地利用している。

■秩父ジオパーク

- ・200m から 2000m の高低差がある。
- ・プレートの動きで隆起、高い山が形成。水が流れるれて盆地が形成。
- ・「甲武信岳」甲州(山梨県)、武州(埼玉県)、信州(長野県)の境にあるのでこの名になっているとされる。
- ・日本地質学発祥の地。
- ・秩父札所。進行の場所。
- ・昔は生きていくのも大変。米があまり取れない。独特の郷土料理。現在ではグルメと置き換えて観光に活用。ジオグルメの会など
- ・火山がないがマグマの影響を受けている→鉾山。「武甲山」石灰岩。地下資源の利用の歴史。

■筑波山ジオパーク構想

- ・地形でストーリー。中心にある筑波山塊の山並みと周辺を取り囲む関東平野。
- ・関東平野が山にぶつかる 平地と山地の境目。
- ・「筑波山塊」火山ではない。プレートの沈み込み活動でできたマグマが冷えてできた深成岩。
- ・関東平野、第四紀の海水準変動、河川の運搬堆積作用でできた、霞ヶ浦を含む海跡湖。
 - ①筑波山塊ゾーン、沈み込み帯付近でのマグマが造り出した山 社寺林の自然と山岳信仰。
 - ②3 つの盆地ゾーン、海洋プレートの長い移動、付加体、盆地の地形 気候条件 果樹栽培 産業が育まれている
 - ③大地と低地ゾーン、海水準変動により台地、低地 里地里山 蛇行河川。
 - ④霞が浦ゾーン 海跡湖、自然、水運の歴史、銚子との交通の歴史
- ・火山の噴火や断層による大きな地震が第四紀以降ほぼ起きていない。→自然に山がくずれる、平野が水の流れでできる当たり前の地学現象をわかりやすく紹介できる場所。

■北海道地図

- ・各地域の周遊マップの紹介

九州：地図と各地の紹介

北海道：地図と各地の紹介、インバウンドを意識して作成(ハングル文字を記載)。

試作品の関東ブロック

- ・作りましようとは言わない、まず各地区がある中でこういうツールを使いながら、どう周遊できるか、そこを議論していかないといけない。
- ・紙だけでない、HP、SNS など利用できるだろう。紙を拠点に置くだけでなく違う媒体をどのように活用するか議論が必要。
- ・どのように関東地区が連携がとれるのか議論の材料にしてほしい。

16：50-17：30 後半：関東地区のジオヒストリーをみんなで完成させよう

関東地区全体の理解を深めるためにジオヒストリーをみんなで考えます。そして、そのジオヒストリーと自然・産業などの関わりも考えてまとめていきます。

※ワークショップの進め方

- ・全部で7班
- ・司会は発表者
- ・やることは「ジオヒストリー年表作成」
- ・初めは自己紹介、書記2名、発表者も決めておく
 - ①大きく「日本列島の土台が大陸の端に出来た時代」「日本海形成の時代」「日本列島ができてから」の3つの時代に分けて、付箋で年表に自分の地域のジオイベントを貼っていく。
 - ②各ジオパークの関連性を考え大きなイベント（例えば関東平野が深い海だったときの事など）をまとめていく
 - ③その中で、書き出したものがどんな自然・歴史・文化につながっているかを議論し書き出していく。

- ・発表は時間の関係で1つの班(桂氏が推薦)

■A 班

(日本列島の土台が大陸の端にできた時代)

- ・ジュラ紀の付加体、下仁田、秩父

産業・文化

- ・常陸の鉾山、銅山 ・コハク ・石灰岩セメント、コンニャクに繋がる ・観光

(日本海形成の時代)

- ・日本海形成 2000 万年前 ・古銅輝石安山岩 ・秩父は湾

産業・文化

- ・観光

(日本列島ができてから)

・関東平野 ・台地 ・霞ヶ浦 ・幻の五日市湖 ・笠間の粘土

産業・文化

・おそば ネギ ・シルク、お酒、キャベツ ・食べのものが多し ・縄文の文化

【桂氏 総評】

・感慨深い感じ。ジオパークを日本につくるときは、こんなに人が出てくるとは予想だにできなかった。

せっかくここまで来たのだからもっともっと、つっぱしっていただければいいと思います。

・A 班に発表してもらった理由。今の暮らしに直結している

・そこら辺歩いている人にアピールするためには、今の時代の産業文化などに直結するものが何かという視点が重要です。そんな活動になってほしい。地質地質しているのもいいが、その面白さを伝える目線がもっともっと出てくるのが望ましいです。

・分科会に別れるのも危ない兆しかなとも思う。全部やらなければいけないこと、全員が活動していかなければいけないことです。

【感想（事後アンケートより）】

・ジオパークごとの紹介・発表により、それぞれの状況を理解でき、勉強となった。ダイナミックな変動を売りにするジオパーク(火山型)と静的な地質を売りにするジオパーク(地質型)があるように思われ、それぞれで面白さがあると感じた。それぞれのジオパークの地球史のなかでの位置づけを明確化すると、それぞれの特徴やつながりがより深く理解できるようになると思われる。

・災害の観点から考えると、津波や地震、噴火などは一つの地域のみのことではなく、広域に影響を及ぼすことが多い。その観点では、複数のジオパークが連携して一つの事象を取り扱っても良いのではないかと感じた。

・ワークショップの結果の発表時間がなかったため、他の班の成果が見られなかったのが残念だった。

・時間不足な感じがしました。設定されたテーマが漠然としていて、どう答えて良いかわからない面があったように思います。

・時間があれば、共同の現地討論会が必要であると思います。そうすれば、共通認識ができますからね。

・C 分科会は、家庭科の調理室で行われたのですが、分科会の内容からみて、別の会場の方が良かったように思います。会場の確保の関係から仕方がなかったのかも思いますので、一概には言えないのですがね。

・「関東ジオパークでのネットワーク化は夢があって面白い

・ジオガイド同士の交流会をもっと盛んにするため協議会を作る。」

・「ジオガイド養成講座として2泊3日くらいの研修会の企画。KJ 法などでストーリーを作るプロセスの体験交流。

・各発表者の時間が少なかったように思います。

・大勢が参加し個性に富む紹介もあって大変参考になりました。関東地域で何かお互いで紹介しあえるような共通点や関連性が見いだせれば良いと思います。

・少々テーマが難しかったです。

・各ジオパークにおける地質から生まれる観光への戦略等が意見交換できるとよい

・私どものジオパークが抱える課題の1つに「広域にサイトが点在するジオパークに共通するストーリー作り」があります。

このことを関東エリアに置き換えればそのまま私どもに当てはまることであり、どのようなアプローチが考えられるか、1つ

のヒントを提示していただいたように思います。

- 各地に点在するサイトをつなぐテーマについて、考える材料にしたいと存じます。
- 難しいストーリー作りだと思いました。結果、明確なストーリーや答えは出ませんでした。しかし、今後の取り組みとして次に繋げる課題になりました。
- 町としていかにストーリーの一部になるか？河川やマグマなど絡めればと思います。
- 時間が足りなかった。地域の詳細な内容を知らないで参加しにくい分科会だったみたいなので、事前にやることや用意する試料等告知があるとよかった
- ”ガイド分科会もしくは、ガイド同士でのガイド手法、ガイド組織の討論
- 理解しかけたころに時間切れになってしまい残念でした。尚、各分科会の発表で「関東地区ジオストーリー」での様子がまとめられなくて出来ませんでした。やはり時間の関係で無理だったようです。
- また同じ仲間で時間をかけてやってみたいと思いました。

分科会のまとめ

観光(篠原靖氏)

観光とジオを有機的につないでいくためには何が必要なのか、何がうまくいっていないのかを整理した分科会であった。共通して言えるのは、私たちは、各地域の色々な伝統、文化、しきたり、そして地域で眠っていたストーリーを引き継いで生きているし、今後も、若い世代に、しっかりと伝えていく必要があることであった。みなさまは、地域の特性をつなげてご案内いただいていることがわかった。つなげていくためには、ジオという地域の裏側を一步二歩踏み込んで、ご案内することが地域の活性化ではないかという議論も出た。それから、行政間で、ジオと観光のセクションの間の連携が取れていない。みなさまは、ジオのすばらしさを、観光の担当の方も、自分の地域のすばらしさについて、ジオガイドを通じて学び、誇りに思っていた。今日の基調講演にもあったが、地域のランドデザインを明確に出していただきたい。

教育(植木岳雪氏)

教育の方では、①ジオパークで教育を行う実施体制について、②学習内容、学習支援について、③教育課程の中での位置づけという3つのテーマについて話し合った。前半は、銚子市をはじめ、5つの地域から事例の発表を行った。その後、6つの班に分かれて、それぞれ、2つの班が1つのテーマで分かれて、ワークショップを行った。話し合いながら、付箋に、色んなことを書きながらまとめて、最後にまとめてもらった。一見して、付箋の貼り方がバラバラですが、これは各班でのまとめ方による。例えば、この班では、一つの付箋が、一つの地域になっていて、その中で、いろいろな問題が出てきて、そこから大きな問題を見出すというやり方です。最後に時間がオーバーしそうになったので、まとめるのがたいへんだったのですが、とても仲良くなったことが良かった。

関東地区ジオストーリー(桂雄三氏)

あまりにも壮大なテーマで、時間切れとなった。でも、もう一回地域の資源をジオから作り直すという活動を、これからもずっと続けていかなければならない。あそこの北海道地図さんが作った床地図、関東地区のジオパークの共通点は、関東平野の縁で作るジオパークである。まだ成長過程のプロジェクトなので、いろんなことに興味のある人たちが、関わっている。こういうスタンスで、進んでいくのがいいのではないかなと思う。今日3つの分科会に分かれて、ジオパーク活動の中で、私がこれが専門という意識が芽生えていないか気がかりである。専門性を高めるという効果があるが、篠原先生もおっしゃっていたが、役所の縦割りのようだ。

実は、銚子ジオパークで一番好きなのは、港でサンマを満載したダンプカーが揺れるとサンマがこぼれて、それを猫がくわえるという光景が一番好きである。そういうスタンスも大事にしてやっていきたい。

質問1

さきほど観光の分科会の方で、ジオについては説明することがないとおっしゃっていましたが、ジオパークはまだ浸透していないので、ジオパークの説明をします。それから、さきほどお話で、地域の裏側を語るという意味がよくわからないので、説明をお願いします。

回答(篠原靖氏)

ジオパークという言葉自体が、実際、市民のレベルまで浸透していないので、まだ啓蒙していく時期なのだろうと思っている。例えば、ガイドを始める前に、こういうジオという日本の国土の中で、大切なものを伝えていただくべきであろうと思う。それから、地域の裏側の話しについて、旅行のプロでも語って来られなかった。しかし、しっかりと伝えられれば、もっと銚子の企画書が、重いものになると思う。だから、今まで団体旅行で、周遊型で、宴会型で帰ってしまった。今は、そうじゃない時代ですよね。体験、滞在、交流、こうしたことをやるには、地域の本当の裏側をしっかりと伝えること大事である。ただ一つ、注意しなければならないのは、ガイドの皆さんが、がんばって勉強すると、知識を一つでも伝えたいということになってしまう。長崎の話ししたが、簡単に聞きたいというお客様もいるわけである。今、目の前にいる方がどういう方かを見極める力も、大切であると感じている。

質問2

教育の方の説明の中で、具体的な内容がちょっと見えなかったもので、どういう問題点を、どういう観点から考えて、どういう結果が出たのか、その辺のところの説明をお願いできれば。

回答(植木岳雪氏)

各ジオパークにおいて、千差万別の問題があつて、例えば、実施体制についても、教育委員会を主体してやっているところ、入ってこないところもあり、いろんな問題があるわけである。なので、結果としてどうなったかというのは報告できない。実際には、事例を紹介のあと、実際どういう問題があつて、どういう特徴があるのかを話していただいて、終わった。そのあとに、各班が発表して、全体の方向性が出せればよかったが、時間切れとなった。

質問3:

関東大会をやるにあたって、事務局が準備されてきた。さきほどのまとめを聞いて、銚子の中で、どれくらい、それを受け止めて、何か、これができそうだというのがあればお聞かせ願いたい。

回答(山田雅仁氏)

準備をしている間にも、本当に色々、参考になる話をあちこちから聞かせていただいた。篠原先生からも、役所の縦割りが問題になっているのではないかという話もあったが、なかなか連携できない部分が存在しているということに、自分も気がついた。今後は、もう少し、いろんな人を、巻き込んで、ジオパークをもうちょっと盛り上げて、まちを元気づけていきたいと思っている。

ジオツアー

Aコース 「銚子半島の古代の歴史と下総台地の自然をさぐるツアー」

募集定員：20名 料金：2,000円（昼食代込）

■ツアー概要

銚子半島は、古代から東西交流のつなぎ目となり、下総台地や川・海など豊かな自然の恩恵を受けて、絶え間ない生活史が展開されてきました。このコースでは、歴史の舞台となった西部エリアを訪ね、考古学の専門家の解説を交えて香取海の沿岸に位置する「余山貝塚」（縄文時代）と下総台地上の「野尻古墳群」（古墳時代）、および、2千余年前の祖先の足跡を今に伝える「猿田神社」に焦点を当てます。

また、余山貝塚の脇を流れる高田川にサケの遡上を目指して今秋完成した魚道や、高田川を巡るように整備中の遊歩道、猿田神社に残るスダジイとタブの極相林（千葉県指定天然記念物）、本城ドックに集まる冬鳥の観察を通して、多様な生態系と共存して生きる銚子の様子も見ていきます。

■参加者 20名

■担当 伊藤小糸さん、内匠五月枝さん、宮内秀さん /事務局 赤塚 弘美さん、野尻古墳解説：小松 繁さん

■行程及び当日のガイド内容

（出発）市役所 7:45 発 → 銚子駅 7:55 発

（1）銚子市青少年文化会館

・考古資料見学、遺跡から出土した遺物の見学。赤塚解説。

（2）愛宕山/地球の丸く見える丘展望館

・地球展望館屋上では、曇天のため遠望が利かず、筑波山も見えなかった。代わりに、足元の段丘の法面に残った樹林の観察をした。

（3）余山貝塚

・余山貝塚の見学以外に、2015年度の余山貝塚発掘の成果を臨時の展示施設（元「藤重食堂」）で、地元の人々の案内で見学した。

（4）高田川散策

地元の「余山貝塚美化の会」が尽力して2015年秋に完成した「高田川魚道」を見学した。解説は余山貝塚美化の会会長。

（5）猿田神社

・猿田神社の境内は「七五三」の参拝客でごった返し、極相林や本殿の構造を解説するスペースが確保できなかった。極相林についてはバスの中で解説した。

・普段は非公開の「お宝」が、神主の解説付きで、ツアー参加者に公開された。

・「七五三」の参拝客で混雑する境内を外して、「猿田彦大神降臨の地」や「御神砂」「御神水」など、予定外の場所を見学した。

（6）野尻古墳

・小松繁氏 解説



野尻古墳のようす

(7) 昼食/『うさぎ』

駐車場から高田川がよく見え、少ないながらも、サケの遡上を確認できた。

(8) 車中より利根川見学(本城ドック)

・停車したバスの車内でカモメの解説をした。

(解散) 銚子駅 14:00 予定通り

■感想等

(1) 良かった点

- ・銚子半島の西部地域では初めてのジオツアーを、関東大会の中で実施できた。
- ・猿田神社の「御神砂」の場所では、桂先生に、香取層の斜行層理を確認して頂いた。

(2) 反省点

- ・朝の銚子駅出発時に、箱根 GP の方2名の集合が遅れ、バスの出発も遅れた。
- ・猿田神社出発時、混雑する社前道路の渋滞の中で、箱根 GP の方2名の集合が遅れ、バスの運転手に注意された。
- ・野尻 1 号墳では、ダイコン畑に侵食されて原型を留めていない長方形なので、前方後円墳と言われても、参加者には実感が湧かなかった。
- ・ツアーの計画段階では、前方後円墳の面影をある程度留めている、船木町の弁財天古墳を案内することが検討されたが、道路幅の都合でバスが入れず断念した。弁財天古墳については今後、サイクリングなど、別の手段でのツアーを検討したい。
- ・本城ドックでは、川側座席の方には多少はドックの様子が見えたものの、車道側座席の方にはドックは何も見えなかった。連休の中日で道路が空いており、時間に十分な余裕があったので、バスから降りてドック先端の「水神社」まで案内し、風情ある神木の松の鑑賞や、内水面を泳ぐキンクロハジロの観察、「利根東遷」の解説をすべきだった。

Bコース「銚子半島の海岸で自然と水産業を楽しむツアー」

募集定員:20 名 料金:2,000 円(昼食代込)

■ツアー概要

利根川河口や銚子の海岸では、環境に適応した動植物を観察することができます。また、銚子漁港は日本一の水揚げ量を誇ります。このツアーでは、銚子の海岸線をめぐり、水鳥や特徴的な植物を観察しながら銚子を代表する産業「水産業」に触れていただきます。

■参加者 31 名

■担当者

保立得造さん、江波戸正徳さん、佐相章子さん、新井野芳恵さん、藤本京子さん、平野小夜子さん、石毛美子さん / 事務局 若山昌弘さん

■行程及び当日のガイド内容

(出発) 市役所 8:20 発 → 銚子駅 8:30 発

(行程)

- (1) 第一魚市場(秩父ジオパーク合流
- (2) 千人塚
- (3) 岩石公園
- (4) 第三魚市場
- (5) 君ヶ浜
- (6) 犬吠埼
- (7) 昼食(一いけす)
- (8) 外川漁港
- (9) 外川の街並み散策

(解散) 銚子駅 14:00 予定通り

(当日の内容について)

7 人のガイドが全員担当を決めてそれぞれの案内した。バス内のガイドは 3 人で案内した。

- ・銚子の漁業が日本一である理由、醤油産業、農業等が銚子の環境に適しているために発展しことを説明した。
- ・海岸植物、野鳥(海鳥)が狭い銚子内に多く見られることを伝えた。
- ・外川港及び街並み散策では銚子の発展の原動力となった。漁業の歴史、和歌山からの移住者が近代農業の基礎になったことの理由を話した。

■感想等

参加してくれた地域の事お互いの前調べが足りなかった。お互いの共通点を調べ我々の話に関心を持ってもらう為。

C コース「お手軽簡単！ 銚子でめぐる日本列島形成の足跡ツアー」

募集定員:40 名 料金:2,000 円(昼食代込)

■ツアー概要

銚子ジオパークの特徴は「太平洋に突き出た右腕」と表せる半島の地形とその土地の特徴に基づく自然と人々の営みにあります。ここでは、日本列島形成の過程を語るうえで重要な地質体を手軽に観察することができます。このツアーでは、銚子半島の歴史を紐解きながら日本列島の成り立ちに思いをはせていただき、さらに、銚子ならではの雄大な大地の造形を楽しんでいただきます。

■参加者 16 名

■担当

川原俊久さん、房州房子さん、萩野静也さん / 事務局:岩本直哉さん

■行程及び当日のガイド内容

(集合) 市役所 7:30 発 → サンライズ 7:40 発 → 銚子駅 7:50 発

(行程)

- ・犬吠埼行車中・・・本コースの特徴、銚子ジオパークの特徴の説明

(1) 犬吠埼

- ・2 班に分かれ、犬吠埼灯台周り、灯台下天然記念物説明板
- ・堆積砂岩の感触、遊歩道トンネル上漣痕確認

(2) 地球の丸く見える丘展望館

- ・2階で山田勝彦氏の化石についての解説、屋上で銚子全景ガイド
- ・山田勝彦氏の化石、琥珀についての解説が参加者に印象を与えた。
- ・後に時間経過を考えたとき時間に余裕ができていたため愛宕山層の見学を行いたかった。

(3) 黒生漁港

- ・一山、黒生・川原の海鹿島礫岩の解説、観察
- ・房州のトンビ岩、美加保丸、国木田独歩紙芝居
- ・突堤まで歩き岩本より古銅輝石安山岩説明
- ・一山より黒生漁港の古銅輝石安山岩まで歩いたが、やはりゴミが気になった。特に突堤と安山岩の間のごみ重なりは片づける必要がある。

(4) 夫婦ヶ鼻

- ・岩本の解説、鹿島灘ボーリングコアとの類似性言及
- ・最近の知見を匂わしながら解説したがツアーの参加者からはあまり驚きの反応はなかった。

(5) 昼食

- ・犬吠埼観光ホテル・昼食
- ・スケジュール時間より早かったため昼食を11時よりと30分早くしてほしいと犬吠観光ホテルに依頼したが30分以上待たされ結局予定通りの時間で食事を開始した。
- ・食事はおおむね好評であった。観光ホテルより食後コーヒーと海藻こんにやく土産を全員にサービスしていただいた。
- ・食事の用意ができるまで2テーブルに分かれて歓談した

(6) 犬岩

- ・愛宕山層群、付加体解説。1億5000万年一跨パフォーマンス。

(7) 屏風ヶ浦(名洗遊歩道)

- ・2班にわかれ遊歩道より観察、ガイド

(8) 大谷津

- ・記念撮影⇒屏風ヶ浦の迫力に感動される

(解散) 銚子駅 14:00

■感想等

- ・銚子ジオパークの特徴である比較的小さなエリアで日本列島形成の時代時代を表す地形、地質がありそれを巡るジオツアーであることを強調した。
- ・ガイドを年代順に愛宕山よりはじられずに戸惑った(展望台開館前)。
- ・遊歩道修理前のため実際に浅海堆積海岸に降りられないのはつらかった。
- ・愛宕山層群の観察よりはじめかった ⇒ 愛宕山層群観察ジオサイトを作りたい。
- ・夫婦ヶ鼻層、千人塚層の解説は難しく感じた。
- ・バス内参加者同士の会話として「銚子ジオパークは狭い中に色んな年代のジオサイトがあるね」⇒これが今回のジオツアーCコースの狙いであり、今後ともこの特徴を伝えていきたい。

Dコース「銚電とレンタサイクルで周る銚子半島ツアー」
募集定員:10名 料金:2,000円(昼食代は含まれません)

■ツアー概要

銚子ジオパークは比較的コンパクトにまとまっており、手軽にいろいろなジオサイトを巡ることができます。このツアーでは、レンタサイクル(電動付)とノスタルジーあふれる銚子電鉄を利用してジオサイトをめぐります。黒潮と白亜の香りに触れながらはしる“サイクルツアー”。昼食は人気の回転寿司です。

■参加者 9名

■担当

工藤忠男さん、伊藤光徳さん、椿敬一郎さん / 事務局:竹内健悟さん

■行程及び当日のガイド内容

(集合)7:50に銚子駅観光案内所前 / **(解散)**14:30 銚子駅 予定 14:00

(行程)

- (1)銚子電鉄での移動(銚子駅→犬吠埼)
- (2)犬吠埼駅 → ニュー大新(徒歩)※ホテルニュー大新からレンタサイクル
- (3)犬吠埼 解説
- (4)長崎鼻 → 外川 レンタサイクルで移動、長崎鼻では宝満の解説。
- (5)外川(ミニ郷土資料館) 館長による解説。
- (6)地球の丸く見える丘展望館 入館、解説。
- (7)昼食『島武』
- (8)君ヶ浜 自転車を降りずに解説。
- (9)岩石公園
- (10)千人塚
- (11)第2漁港 → 柏屋ぬれせん本舗 レンタサイクルで移動
- (12)飯沼観音 リンドや飯沼水準原標石についての解説
- (13)軽トラ市(お土産)
- (14)ビジターセンター(お土産)

■感想等

- ・安全面を考慮して参加者にヘルメットを装着してもらった。
- ・途中、レンタサイクルのギアの不調があった。整備面をきちんとする必要がある。
- ・終了時間が遅くなり、他の人にご迷惑をかけてしまった。レンタサイクルでのツアーは時間の予定が立てづらいので、連絡及び終了時間の徹底を心がけたい。



とんぴ岩前



愛宕山前

E コース 「伊能忠敬とめぐる銚子ジオパークツアー ―忠敬は全国のジオパークを歩いています―」

募集定員:20 名 料金:2,000 円(昼食代込)

■ツアー概要

タイムトリップした伊能忠敬と巡る銚子ジオツアー。伊能忠敬の銚子測量は銚子ジオパークの貴重な文化遺産であるとの思いから、忠敬のエピソードを交えながら測量の道筋をツアーすることで、銚子ジオパークの主要ジオサイトの紹介と忠敬の銚子測量への理解を同時に深めてもらおうという企画である。

■参加 8 名

■担当 宮内敏さん、小玉健次郎さん、白土紀子さん、藤身隆雄さん/事務局 山田雅仁さん

■行程及び当日のガイド内容

(集合)7:40 発 → 銚子駅 7:50 発

(行程)

国道 126 号から銚子ドーバーラインへ向かい銚子半島を反時計回りに案内する。

(1) 愛宕山の解説

入館しないが展望を楽しむ。

(2) 屏風ヶ浦

・屏風ヶ浦は伊能忠敬銚子測量記念碑前で銚子測量の重要性について説明。屏風ヶ浦遊歩道は小玉氏が案内。

(3) 犬岩/犬若台地

・白土氏が義経伝説・犬岩の地層・海岸植物の案内
・犬若岬の台地では富士山の方位測量の地を案内。

(4) 長崎鼻

・宝満は車を止めて 2100 万年前の溶岩の案内。

(5) 犬吠埼

・犬吠埼は小玉氏が案内、写真撮影。

(6) トンビ岩では海鹿島礫岩・榎本武揚の父と伊能測量隊、

(7) 昼食「一山いけす」

(8) 夫婦ヶ鼻

・小玉氏が案内。

(9) 岩石公園

・予定を変えて下車しての案内。

(10) 飯沼観音

・下車、参拝、リンドの水準原標石など案内

(11) 利根川沿いを車中より案内し、

(解散) 銚子駅 13:50(予定通り)

■感想等

・コースは時間的に余裕があり良かった。

・1 人を除き、銚子は初めてのお客様。ジャンボタクシーなので空間が狭いこともあり、終始フレンドリーな雰囲気
で質問なども多くあった。

- ・ジャンボタクシーは小回りが利き、乗り降りも便宜をはかってくれた。
- ・用意した配布資料を伴走車に乗せたため(私の連絡ミスで)配布ミスがあった。
- ・車内案内で、お客様の質問などに答えている間に、車が説明すべきサイトを過ぎてしまい、案内できなかったサイトが2,3 でした。(千人塚、利根川河畔)。
- ・車内案内であっても、主要なサイトは下車しないまでも停車してご案内すべきだった。
- ・主要サイトの案内は小玉・白土・藤身氏にして頂き、とてもよかった。
- ・2 人のお客様から、食後おいしかったと言って頂いた。

総評:スタッフ各位のご協力を頂き、全体として成功に終わったと感じている。



伊能忠敬銚子測量記念碑前



犬吠埼遊歩道



犬吠埼灯台前



とんび岩



昼食



飯沼観音

協賛金協力者

銚子商工会議所	石井丸
千葉科学大学	東京・銚子商業 OB 会
銚子ジオパーク推進市民の会	エリアサポートジャパン 302 企画
銚子市観光協会	島武水産
銚子市漁業協同組合	島長水産
ヒゲタ醤油株式会社	株式会社東総理工
ヤマサ醤油株式会社	株式会社トラヤ
犬吠埼ホテル	銚子インターネット株式会社
太陽の里	株式会社小川戸機械
銚子プラザホテル	ナルク銚子
銚子信用金庫	イオン銚子
銚子商工信用組合	銚子山十
銚子ロータリークラブ	吉川陶器店
銚子東ロータリークラブ	銚子市旅館組合
嘉平屋株式会社	